



僕らは一番美しい瞬間にこの世を去るべきだと思わないか？

青 棘

—1927年、世界中を揺るがした衝撃の事件
「シュテークリッツ校の悲劇」完全映画化—

『グッバイ、レーニン!』『ラヴェンダーの咲く庭で』
ダニエル・ブリュール主演最新作

監督・脚本:アヒム・フォン・ボリス / 共同脚本:ヘンドリック・ハンドレーゲン / 原作:アルノ・マイヤー・ツォ・キュイングドルフ
原案:アネッテ・ヘス、アレクサンダー・ブフォイファー / 製作:Xフィルムクリエイティブ・プール / プロデューサー:シュテファン・アルント (『グッバイ、レーニン!』)
出演:ダニエル・ブリュール、アウグスト・ディール、アンナ・マリア・ミュニエ、トール・レントハート、ヤナ・バラスク
サウンドトラック(輸入版):POP BIZ / 後援:ドイツ連邦共和国大使館、German Films、「日本におけるドイツ 2005/2006」参加行事
提供:ニューセレクト / 配給:アルバトロス・フィルム / R-15
www.aoitoge.com



A film by ACHIM VON BORRIES. "Blue Canvas" presents an X FILM CREATIVE POOL production with cooperation from ZDF, ARTE, DANIEL BRÜHL, AUGUST DIEHL, "LOVE IN THOUGHTS", ANNA MARIA MÜCHE, THURE LINDHARDT, JANA PALLASKE, SIMONE BAER, NICOLE FISCHNALLER, CLERKA ANDERSON, HEIKO SCHMIDT, GERGEN VOGT, ANJE ZINGA, THOMAS FEINER, INGO LEBENZKE, PETER SCHUEHMACHER, MARTIN STYER, JOHANNES WOLFF, JÖNSSON, PETER HARTIG, MARCOS KANTIS, LUCAS SCHMIDT, ANDREAS SCHRETTMÜLLER, ACHIM VON BORRIES, HENRIK HANDEGOTTEN. Distributed and original title by ANETTE HESS and ALEXANDER PFEUFFER, producers STEFAN ARNDT, CHRISTOPH MAZOWER, MANUELA STEHR, Achim von Borries, CIA Film Creative Pool GmbH 2005

X FILM CREATIVE POOL ZDF ARTE DOLBY DIGITAL 5.1 PANORAMA

若さとは、 ワインを飲まずして酔っている状態なのだ —ゲーテ「ファウスト」より

1927年、ベルリン。初めての恋、湖畔の別荘、ダンスと音楽、アブサンの陶酔——。
若さのすべてがここにあった。

詩を愛する内向的なパウル・クランツと上流階級出身のグンター・シェラーは、寄宿学校の最上級生。育った環境の違う2人は、ある「取り決め」により結束する。それは“歓喜に満ちた偉大な瞬間”“大なる愛”を求めること、そして“愛を感じなくなった瞬間”にこの世を去ること……。

6月28日の早朝、19歳の学生グンター・シェラーが見習いシェフのハンス・ステファン(19)を射殺、続いて自らも頭に銃弾を打ち込んで死亡した。現場にはシェラーの友人パウル・クランツ(18)とシェラーの妹ヒルデ(16)、その友人のエリ(16)が居合わせた。射殺現場を目撃したのはパウル・クランツだけだった——。

政治的に不安定ながらも芸術の面では「黄金の20年代」と呼ばれたワイマール時代のベルリンを忠実に美しく映画化したのは『グッバイ、レーニン!』の製作チーム。青年の繊細な感情の渦をデリケートに演じるのはドイツを代表する若手俳優ダニエル・ブリュールと、ヘルムート・バーガーの再来との呼び声高い実力派アウグスト・ディール。『わが青春のマリアヌ』『モーリス』『眺めのいい部屋』に次ぐ、究極の愛のデカダンスがまたひとつ誕生した。



ワイマール時代

第一次世界大戦敗戦後の1919年からヒトラーが政権を掌握する1933年までのワイマール憲法による共和国時代。政治的には不安定だったが、表現主義絵画、ハリウッドを凌ぐ映画産業、 Bauhaus運動など革新的な芸術や思想が生まれ「黄金の20年代」と呼ばれた。

- 1919年: 国立美術学校 Bauhaus 創設
- 1920年: ロバート・ヴィーネ監督「カリガリ博士」公開、大ヒット
- 1922年: フリッツ・ラング監督「ドクトル・マブゼ」公開
- 1924年: 作家・カフカ(「変身」)死去
- 1925年: ヒトラー「わが闘争」刊行 SS(ナチ親衛隊)創設
- 1930年: 音楽家・ワーグナー死去
- 1933年: ヒトラー、ドイツ国家元首就任



生きることに意味を見出そうとしすぎるとうるさくなる。
若さゆえの陶酔と挫折が痛いほど伝わってくる。

● 里中満智子 (漫画家)

20年代的な美しさで描かれた映像の魅力。

誰の心にも刻まれた「青春の思い出の棘」が胸を刺す。

● 大内順子 (ファッションジャーナリスト)

不安と陶酔の交錯する20年代のベルリン、
人生と愛の意味を模索する若者の精神に深く踏みこんだ、
思索的で官能的な作品。

● 瀬川裕司 (ドイツ文学者・明治大学教授)

胸に刺さる棘の痛みは連れあい、ちぎれゆく……

底知れぬ青春の沼に浮かんでいる若者は、
とてつもなく危うく美しい。

● 森山開次 (ダンサー)

なぜ彼女は愛されて、私は愛されないのか——

青春の永遠の問いが、ここにある。
棘が痛い、そして切ない。

● 林あまり (歌人)

美しさは、それだけで罪なもの。
映像美とロマンチズムに満ちた美少年の愛のデカダンスは、
まさに美の極致である。

● 假屋崎省吾 (華道家)

愛すること、死ぬことについて、
こんなにも性急に、一途に、考えていた日々が
自分にもあったような気がする。

● 松永美穂 (翻訳家「朗読者」・早稲田大学教授)

精神的な美学としてドイツのデカダンスは、
なぜこんなに魅力的なのでしょう!

● フランソワーズ・モレシヤン (ファッション・エッセイスト)

どんなに愛されても、愛せなければ孤独。

届かない愛を抱く者は、傲慢であり幸福でもある。

● 小椋冬美 (漫画家)

なにげないシーンの時間旅行が超新鮮!

「ハッと」胸に突き刺さるような激しい青春恋愛図が、

「ホッと」するような1927年を再現した美しい映像にのる妙!

● サエキけんぞう (ミュージシャン)

(劇中曲・歌務略)



2004年ベルリン映画祭正式出品作品 / 2004年サンダンス映画祭正式出品作品 www.aotoge.com

監督・脚本: アヒム・フォン・ボリス / 原作: アルノ・マイヤー・ツォー・キェンダルフ / 製作: シュテファン・アルント (『グッバイ、レーニン!』) / 出演: ダニエル・ブリュール (『グッバイ、レーニン!』)、アウグスト・ディール (『9日目のタトゥー』)、アンナ・マリア・ミュエ、トラー・リントハート、ヤナ・バラスケ / 2004年度作品 / ドイツ映画 / 90分 / ビスタサイズ / ドルビーデジタル / 原題: Love in thoughts / R-15 / サウンドトラック (輸入版): POP BIZ / 後援: ドイツ連邦共和国大使館、German Films / 「日本におけるドイツ 2005/2006」参加行事 / 提供: ニューセレクト / 配給: アルバトロス・フィルム

10月29日(土)、陶酔のロードショー!

前売鑑賞券絶賛発売中! 一般 ¥1,500 (税込) [当日一般: ¥1,800 (税込) の値]

☆劇場窓口にてお買い求めの方に先着で「青い薔薇のブローチ」プレゼント

☆初日29(土)にご来場の先着50名様に「青いバラ輪包み」プレゼント! (提供: ヒビヤフラワーアカデミー)

☆10/30(日)、11/3(木・祝)にご来場の抽選各5名様に高級ドイツワインプレゼント! (提供: 銀座ウイナックス)

☆Xeats! ドイツ料理の名店「ツム・アインホルン」にてオリジナルメニュー展開決定! 問合せ: 3.563-9240

渋谷・東急本店ヨコ
Bunkamuraル・シネマ
03(3477)9264 <http://www.bunkamura.co.jp>
毎日 11:30 | 1:30 | 3:30 | 5:30 | 7:30
Bunkamura 東急東横線 渋谷駅 徒歩5分

Bunkamura 東急本店
文化村通
道玄坂 109
東横線 渋谷駅
国道246号

定員制・入替制 お立ち見及び上映開始後の入場はできません。前日までに混雑状況をご確認の上お出かけ下さい。